

●●らしく居られる場所

●●には五歳上の兄と二歳上の姉がいますが、二人は別の幼稚園に通っていました。夫婦共に結婚を機に京都に住んだので、地域での知り合いを増やしたくて兄のときは近所のほとんどの子が通う地元の幼稚園を選び入園。姉もその流れで同じ園へ。当然、●●も…と、園バスの窓から姉妹でこちらに手を振りながら一緒に登園していく姿を思い描いていた、入園一年前、ある友人からむらさき幼稚園の話を聞きました。

「ちょっと変やけど、おもしろい幼稚園やで」そんな風に話す友人からは、むらさき幼稚園への愛が溢れていて、「こんなにも保護者から愛される幼稚園、見てみたい！」と、何気ない気持ちで園庭開放へと足を運びました。

初めての園庭開放で私の目に飛び込んできたもの全てが魅力的で、すごい衝撃が心に走ったことを今でもよく覚えています。まるで前から私たちのことを知ってくれていたかのように話しかけ遊びに誘ってくれるむらさきっこ。こどもたちと一緒に泥んこになって遊ぶ先生。季節の実がなる木々も魅力的で、特に印象的だったのが滑り台を滑ったときにふわっと香ったキウイの花の甘い香り。（この歳になるまでキウイの花なんて見たことがなく、すごい発見だ！と心が躍りました。）

こんな幼稚園で過ごせたら、●●はどんなに素敵な毎日を送るだろう…心のときめきはあるものの、お互いのことが大好きな姉と●●の気持ちを考えると別々の園に通わせることへの迷いは断ち切れず決断までに長い葛藤がありました。家族で何度も話をし、むらさき幼稚園に願書を出すと伝えた時の、友人の驚いた顔は今でも忘れられません。(笑)

入園当初は、友人の子○ちゃんを心の支えにしていましたが、徐々に志賀先生に心を開き、一人二人とお友だちが増え、好きなことを見つけ自分の想いを出せるようになっていきました。入園当初、姉と離れる寂しさを心配していましたが、帰宅後は姉妹それぞれの園の自慢話で盛り上がる毎日で姉もいつのまにかむらさき幼稚園の大ファンに！とてもほほえましい時が流れました。

進級後は不安な気持ちから警戒心MAXで「こんな嫌なことされた!!」と困った出来事を話すことが多かったのですが六月に入った頃に、ふと「こんな嫌なことされた。でも…優しいこともしてくれたんだよなぁ」と言いました。自分のために折り紙を折ってくれたことや知らなかった虫のことを教えてくれたことなど、嫌なことがあったとしてもそこで終わらず、その子の素敵だと感じたところも話してくれるようになり、●●の心の成長を感じたと同時に、ものくみが●●にとって居心地の良い場所になってきているのだととても嬉しく思いました。

入園から約1年半。園生活もちょうど折り返しの時期におやおやの原稿依頼をいただけたことは、ここまでの園生活を振り返り、そして残り半分をまた新たな気持ちでスタートするためのとても良い機会となりました。友だちとの想いのぶつかりは日々あるようですが、家・親戚・近所でも末っ子で、みんなに甘えさせてもらっていた●●。たくさん人と関わる中でいろいろな想いがあることを経験させてもらえているのはとてもありがたいと感じています。こどもの想いをそのまま出させてくれ、信じて見守ってくださるむらさき幼稚園で心を育んでもらい、●●の成長をたくさん感じることができました。この幼稚園に入園できたことと、あの時私にむらさき幼稚園を勧めてくれた友人に本当に感謝の日々です。

雨が降ればトユに頭を突っ込み滝修行。三人がかりで先生が説得してくださるも着替えを拒否し毛布ぐるぐる巻きで帰ってきたこともありました。園庭の実がなくなれば、「むらさき幼稚園やめる！他の園に行く！（その園でまた食べる）」と言ったり、絵本の部屋に迷い込んだトンボに「あなたも家族がいるでしょ、家族のもとへ帰りなさい」とどこで覚えた!?というセリフで説得を試みたりと、●●ワールド全開の毎日をこれからも過ごすことと思います。そんな場面を見かけたときは、ぜひ一緒に笑ってもらえたら嬉しいです。

